

VF-17Sナイトメア

(マクロス7)

バンダイ 1/144スケールプラスチックキット
製作・文 政府開発援助

1.VF-17について

統合軍VF-17型はステルス能力と重武装に主眼を置いて開発された可変単座戦闘機である。機体は多面体ステルス構造をとっており、また武器・燃料タンク等を全て内蔵しているのが特徴である。その為大気圏内空戦能力はやや見劣りがする(機体の大型化もその理由の一つであろう)。局地迎撃戦闘機や隠密作戦用機として用いられる場合が多く、マクロス7にも護衛部隊であるダイヤモンドフォースの専用機として配備されている。

VF-17には一般用のD型と指揮官用のS型が存在し、S型は頭部レーザー砲の本数が異なる他、センサー・エンジン等が若干強化されている模様である。S型の搭乗者としてはダイヤモンドフォース初代隊長・金龍大佐(後に戦死)や同二代隊長・ガムリン大尉、更にはシティ7市長・ミア等の記録がある。

2.キットについて

旧シリーズのVF-1バルキリーより二回りほど大きく、1/144にしてバトロイドはポリパーツによる関節可動を実現しています。このシリーズはバトロイドとファイターの2機セットで、VF-17では実機同様D型とS型のコンバーチブルとなっています。マーキングはメッキシールが付属。キットのギミックやパーツ数は当時のスタンダードというべきものです。ST基準やPL法の為か各パーツの角やエッジが丸くなっているのが気になります。また、設定画からは骨太で精悍な印象を受けるVF-17ですが、キットの方はぼてっとして若干メリハリに欠けるような気がします。

3.製作と塗装について

今回は赤く塗装されたミア専用機を製作しています。この機体は「マクロス7」第21話(あぶないKISS)にのみ登場しており、プロポーションもこのエピソード中での形状を再現することを念頭に置いて修正しています。

製作にあたって新発売されたタミヤ速硬化タイプエポキシパテを使用しましたが、硬化時間・削り固さともなかなか良好でした。また、関節パーツやバーニアの類はWAVE・コトブキヤ・PRO-HOBBYのオプションパーツを組み合わせて使用しています。

頭部 頭頂部の幅が約1.5mm狭くなるよう接着面をくさび形に削り、首との接続はボールジョイントに変更。首はバーニアパーツをベースに自作。

胴体 腹部で一旦切断し、上半身は肩付根にボールジョイント組み込み(スパーサーとしてプラスパイプMAXを通してある)。下半身は機首パーツの角度を若干変更。背面パーツは正面から見える肉抜き部分を埋めた。

腕部 肩アーマーは外に向かってくさび形にスパーサーをかませた後、上面にエポキシパテを盛って大型化。ヒジや手首の関節をプラ板とポリキャップで新造。下腕は約2mm幅詰めし開口部にバーニアパーツを



前面

埋め込み。手首は市販パーツの指の角度を調整し、手の甲に凸モールド追加。

脚部 ヒザから下を2mm幅詰めし、ふくらはぎの張出しをプラ板で追加。ヒザ関節にはカバーを付け、バーニアパーツでモールド追加。足首は関節軸の高さを2mm上げた後前後ともエポキシパテで大型化し、土踏まずにバーニア追加。

武器 縮めた状態も再現できるように、機関部を型取りして複製（真鍮線に通すようにしているので重い）。銃口にモールド追加。グリップは畳んだ状態とした。



背面

今回ミリア機ということで、グンゼのサーフェーサー1200、グンゼのベースホワイト、モデラーズのブライトレッド（いずれも缶スプレー）の順に吹いています。武器はラッカー系のグレー75とエンジングレーFS16081を筆塗り、それ以外はエナメル系の明灰白色・ダークグレイをグンゼのスーパークリアでオーバーコートしながらこれも筆で塗り分けました。メインカメラはフラットアルミの上にクリアレッドを重ねています。スミ入れは本当に黒い部分にスモーク、赤いパーツの凹部にスモーク+クリアレッド、グレイのパーツの凹部にスモーク+クリアレッド+クリアブルーを流してみました。マーキングはストライプをエナメルカラーのレモンイエローで塗り分けた他はウェブから別売されたデカールを使用し、最終的にモデラーズのつや消しクリアでオーバーコートしました。

4. 製作過程



肩付け根のギミック。この後腹部で上下分割した。この時点でスネは幅詰めされ足首の高さが増している。



左側の肩・足首を大型化し、下腕を幅詰め（ヒザ関節は暫定パーツ）した状態。



正面。手首は市販の可動タイプのものに変更。この後首を延長し、ヒザ関節は切り詰めた。



背面。スネ後部の形状を修正し、各部にディテールパーツを追加した。